

○婦中地域上下水道事業に関するタウンミーティング議事録

日 時：令和7年10月25日（土）

午前10時～11時30分

場 所：婦中ふれあい館

出席者：31人

【上下水道事業管理者からの説明】

【意見交換会】

・一般家庭と大口事業所の使用水量の比率はどうなっているのか。

（経営管理課長）

一般家庭では13～20mmの口径がほとんどであり、使用水量は全体の約82%、大口事業所などは50～200mmの口径で、使用水量は全体の約17%です。

・市内の下水処理場はすべて管路でつながっているのか。

（下水道課長）

市内の下水処理場は全部で8か所あります。すべてつながっているわけではなく、処理区ごとに汚水を処理しています。

・下水道使用料などは、合併前の地域ごとの料金体系でもよいのではないか。

（上下水道事業管理者）

合併時に、地域ごとに異なっていた料金体系を一番低い旧富山市の料金に統一したという経緯があります。今、また地域ごとの収支状況に応じて料金体系を変更することは現実的には難しいと考えています。

・今後人口減少が進む中で職員数も減っていくと思うが、ITなどを活用していく考えはあるのか。

（上下水道事業管理者）

全国では漏水調査を AI を活用しながら行っているところもありますが、コストが高いことや正確性がまだ低いという課題があります。

富山市ではスマート検針といって、一部の中山間地域などでスマートメーターから検針結果がデータで送付され、それを基に料金を請求するという手法を取り入れています。

今後、職員数の増加が見込まれない中、AI や ICT 技術を活用して業務の効率化を図ることが重要な課題であり、その方向で検討を進めてまいりたいと考えています。

※発言の一部を整理して掲載しています。（上下水道局経営管理課）